

# 熊大通信

vol. 83  
2022 Winter

## 特集I

教育で未来に「つなぐ」  
新時代の先生たち、ココから。

## 特集II

熊本大学のベンチャー支援



## 棟札

むなふだ  
棟札とは、竣工した建物の記録と建て主や建物の安全や繁栄祈願のため、建物内部の高い場所、主に屋根裏などに置かれた木製の札である。建設に係わる記録と神仏への祈願文などが記載される。

旧第五高等学校本館(現 五高記念館)の棟札は高さ228 cm、幅30 cmあまりの極めて大きなものであり、建物の竣工当時から本館の屋根裏に置かれていた。

棟札の表面上部には「第五高等学校」の文字を中心に建設地の当時の名称である「肥後国 飽田郡」や、工事期間、構造、階数、建坪数が記載され、下部には、設計にあたった文部省技師、山口半六と久留正道を筆頭くるとまぢみちに工事に携わった関係者の名前が列記されている。

山口と久留は留学先や工部大学校で正式に造家学(建築学)を学んだ技術者であるが、実際の建設にあたったのは地元の職人たちであった。れんが積みの作業は、佐賀藩御用の流れをくむ佐賀振業社が請け負い、その他の作業は熊本の中小業者が請け負った。

棟札の破格とも思える大きさには、彼らが初めて取り組む赤れんが造の建物を、その確かな技術で無事に完成させた喜びと誇りが現れている。

文 藤本秀子(五高記念館)

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。





未来へつなぐ。  
— 熊本大学とSDGs —



熊本市内の公民館と連携して、子どもたちと一緒に様々なイベントの企画や運営を協働で行っているのが「フレンドシップ事業」。質の高い教員を育てるとともに、子どもたちに学校だけにとどまらない体験と教育の場を提供する目的で1997年に始まりました。現在は学生サークル「メイクフレンズ」が運営を行っています。小学生にとっては学校が異なる友人や年齢が異なる大学生と触れ合う場にもなっており、学生、児童の双方にとって、重要な学びの場です。

大学院教育学研究科  
中山 玄三 教授

※フレンドシップ事業については、9・10ページでも紹介しています。

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 教育で未来に「つなぐ」新時代の先生たち、ココから。
- 11 研究室探訪 世の中のあらゆる問題や事象から社会や人とのつながりを考える  
法学部法学科  
外川 健一 教授
- 13 特集Ⅱ 熊本大学のベンチャー支援
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【原画】大学院教育学研究科 松永 拓己 教授  
雪の日の熊本大学附属図書館前の広場にて。雪と戯れる。

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.83

\*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学  
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1  
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110  
(総務部総務課広報戦略室)  
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会  
茂木 俊伸 / 委員長 大学院人文社会科学部(文学系)  
安高 啓明 / 大学院人文社会科学部(文学系)  
松永 拓己 / 大学院教育学研究科  
松永詩乃美 / 大学院人文社会科学部(法学系)  
原岡 喜重 / 大学院先端科学研究部(理学系)  
黒田 雅利 / 大学院先端科学研究部(工学系)  
坂梨 京子 / 大学院生命科学部(保健学系)  
首藤 剛 / 大学院生命科学部(薬学系)  
内山 佳世 / 総務部総務課広報戦略室

【制作】 株式会社 談

※取材にあたっては、基本的な感染防止対策をとった上で実施し、撮影時のみマスクを外しております。

教育で未来に「つなぐ」

# 新時代の先生たち、ココロから。

熊本大学の新しい教員養成……

九州で唯一、初等・中等教育から特別支援教育、養護教育まですべての教員養成課程を有する熊本大学教育学部。教育現場が抱える様々な現代的課題に対応できる教員へのニーズに応



新しい取組

## 人をつくり、地域をつくる、魅力ある教員へ 教育学部の新しい教員養成課程

2022年度から変わる  
教育学部の教員養成課程。  
その目的と  
目指す教員の姿を伺いました。

目指すのは「今」の課題を解決できる「新時代の先生」

教育学部には「小学校教員養成課

程」「中学校教員養成課程」「特別支援教育教員養成課程」「養護教諭養成課程」の4つの課程があり、それぞれで教育を充実させ、専門性の高い教員養成を目指してきました。この4つの課程を1つの課程に編成し直そうとい

うのが2022年度からの教育学部改組です。

改組することで、教える側はこれまでの4つの課程、各教科を横断した教員の連携ができ、学ぶ側は興味や必要に応じて様々な授業科目を受講できるようにになります。「授業開設の幅、履修の幅が広がり、多様な視点と知識を持つ人材の育成ができると考えています」と話すのは藤田豊教育学部長です。さらに、実技系教科についても5つの専攻(音楽・美術・保健体育・技術・家庭)が1つにまとまります。複数の科目を学ぶことでいろいろな領域の知識を兼ね備えた教員の養成を目指します。

改組の目的は、時代の変化への対応です。藤田学部長は「教育現場には、現代ならではの様々な問題があります。

課題解決のためには、教員自身が自分で深く問題の本質を考える力が求められます。そのために幅広く専門領域から学び、多様な視点で課題を探究することが必要になります。だからこそ、科目や分野を横断した学びや、学外での多くの体験活動がより重要になります」と話します。

これまでに教育学部で取り組んできた地域貢献の活動や、現職教員の学び直しにつながる教職大学院など実践を通じた学びの場の充実も重要です。「新たな取組とこれまでの取組をつなげながら、新時代の先生を養成したいと思います。時代が求める先生を養成する体制は整っています。教育への熱意を持って学ぶ学生の皆さんを、教育学部は全力で支えていきます」と話してくれました。



熊本大学教育学部長  
藤田 豊 教授  
FUJITA Yutaka

地域の人や保護者とも触れ合える  
学外での体験機会を増やしていきます。



大学院教育学研究科  
田口 浩継 教授  
TAGUCHI Hirotugu

理数系科目の面白さを子どもたち  
に伝えられる先生を育てていきたいです。



大学院先端科学研究部  
村田 貴広 准教授  
MURATA Takahiro

は理科を選択し、中学校教員免許を取得する学生が減少傾向にあるという現状を解消することを目的としています。数学・理科分野を研究している教員の専門分野に関する講義や、学校や大学外のイベントへの参加を1年次から実施予定です。理科を担当する村田貴広准教授は「実際の授業において、子どもたちは実験やフィールドワークを通して、対象物や地域、人と触れ合いながら学びの楽しさを感じていきます。学外イベントでも同じ姿が見えてくると思

## 教育現場の ニーズに応える 特徴的カリキュラム

今回の教育学部改組で、4つの教員養成課程は「学校教育教員養成課程」として1つに統合されます。今までの小学校教員養成と中学校教員養成は「初等・中等教育コース」とし、「特別支援教育コース」と「養護教育コース」の3コースで展開します。



校・中学校を訪問し、それぞれの現場の実態や児童生徒像を観察する基礎セミナーなどを充実。双方の特色を知る教員を育てます。その上で、科目などの専攻に応じた専門教育や探究科目を実施することで、幅広い知識や視点を持つた教員が養成できるのです。

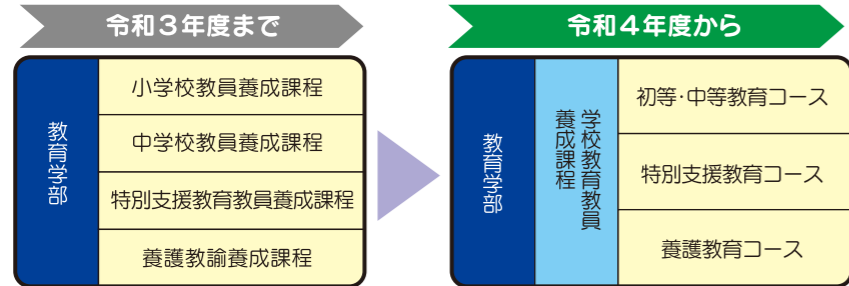
さらに、音楽・美術・保健体育・技術・家庭とそれぞれの専攻に分かれていた実技科目5教科については「実技系専攻」に統合します。この背景にあるのは、少子化による教員採用数減少に伴う、小規模校のニーズです。児童・生徒

現場や地域への熱意を持った教員を養成する

学校は地域の活性化に欠かせない存在です。新しいカリキュラムで学んだ学生が、教育現場にたち、様々な課題と向き合いながら、地域全体に好循環をもたらすことを、大学は期待しています。

そのため、今まで現場や子どもとの接点が少ない1・2年次のカリキュラムを強化し、専門性や資質・能力を高められるような学外での体験への後押しを図ります。「意欲のある学生は周りに良い影響を与えます。1年次からディスカッションや学外体験を通して、教育への熱意を共有していけば、きっと他の学生にも波及効果が表れます」と田口浩継教授。柔軟性と熱意のある教員養成を目指し、新しいカリキュラムが始まります。

### 4つの課程を1つの課程・3つのコースに



算数や数学の楽しさを伝える学外イベント「算数数学サロン」

へき地の学校で求められる指導・教育方法は、都市部の学校でも役立ちます。



大学院教育学研究科  
山城 千秋 教授  
YAMASHIRO Chiaki

数が少ない小規模校では、それぞれの実技系教科を担当できる教員が採用されない場合もあり、実技科目を複数担当できる教員へのニーズが高まっています。今回の実技科目統合では、「家庭」と「音楽」、「美術」と「技術」など複数の教員免許取得も可能になりました。

「この教育現場のニーズに応える教員養成が、このような特徴的カリキュラムで実現できるようにするのが目的です。」

### 現代的課題に 深く寄り添う 「地域枠」と「理数枠」

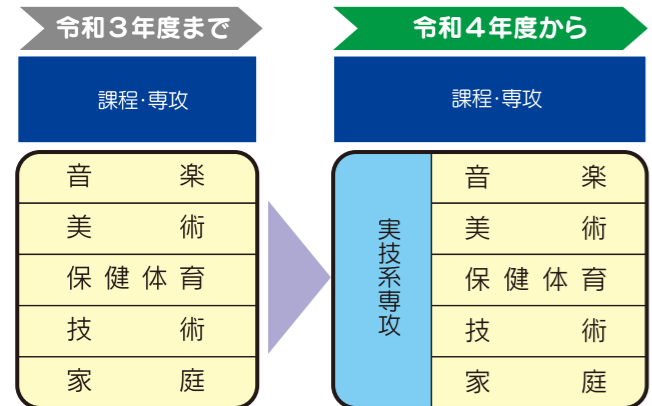
また、教育現場にある現代的課題の解決を目的としています。

「地域枠」では、過疎地域が抱える問題を解決する教員を養成します。現状では熊本市の教員採用試験に比べると熊本市の教員採用試験は志願者が少なく、都市部とへき地の教育の質に差が出かねない状況です。そのため、自らがへき地で学び、へき地の現状を知る熊本県内の学生に、過疎地域でも情熱を持って子どもたちと地域に接することができる教員を育てようとしています。そのために、1年次から現場経験が豊富な現職教員とのディスカッションや、熊本市教育委員会と連携した最先端のICT教育など、地域課題の解決に対応する教育に特化したカリキュラムを組みます。3年次には熊本市以外の小学校での教育実習も予定しています。

社会教育が専門の山城千秋教授は、「ICTの活用や複式学級(2つ以上の学年で構成される学級)の指導のあり方、子どもとの向き合い方など、へき地の学校教育に対応できる人材が求められています。その能力は大規模学校にも通用します」と話します。

「理数枠」は、小学校の教員を目指して教育学部に入學してくる学生の多くが文系出身であり、副専攻として数学また

### 5つの専攻を1つの専攻5つのコースに



教育現場や児童への理解を深める「教職実践基礎セミナー」

新しい  
取組

# 5教科の横断で専門性と 多角的視点を持つ教員へ 〜実技系5教科を横断するカリキュラム〜

専門的学びに加え、  
横断的な学びも加わる「実技系専攻」、  
どんな授業が展開されるのか、  
松永拓己教授に伺いました。

## 専門以外の教科の エッセンスも学ぶ

音楽や美術などの実技教科は、各教科の専門性を高めることが求められてきました。しかし今の多様性の時代、多角的視野が求められるようになってきました。そのニーズに対応するのが教科横断的カリキュラムです」と松永拓己教授は話します。新しい講義では、5つの教



大学院教育学研究科  
松永 拓己 教授  
MATSUNAGA Takumi

科の教員と一緒に1つの講義をつくるものがあります。例えば体育コースの学生が絵を描いたり、音楽コースの学生が料理をしたり。体験や体感から自己探究しようという画期的な取組です。探究する講義は、グループワークやディスカッションを中心にしたアクティブ・ラーニングで行われる予定です。「自分で社会的問題を解決する力やコーディネート力を持った教員の養成につなげたいと思っています」

で体育専攻の学生は体育教員免許のみと、専攻する教科によって取得できる免許は基本的に限定されてきました。松永教授は「地域によっては子どもの減少により、学校に配置する教員の数が限定され、実技系教科を専門的に学びにくい状況ができています。例えば技術と家庭の免許を持った教員がいれば、両方の専門的知識を子どもたちに教えられます。音楽と体育を同時に行うこともあるかもしれません」と強調します。

## 複数教科の免許取得で 地域特有の問題を解決

もう一つの特徴は、複数教科の教員免許をとりやすくする計画です。これま

そして「体育が得意な学生が苦手な絵を描く体験を知っていれば感性も豊かで、苦手をもつ子どもにさらに寄り添える教員になれるでしょう。そう期待します」。共感できる能力をもった教員は、次の10年のさきがけ的な教育人材になってくれることでしょう。

発展させる  
取組

# 実践的な指導力を 高める教職大学院 世代や経験値を超えて学び合う楽しさ

教育現場と熊本県・熊本市教育委員会との  
密接な連携に基づき、2017年度に発足し、  
2020年度に改組・拡充したのが  
熊本大学教職大学院です。  
学校で即戦力になる教員養成を目指しています。

## 学部新卒学生と 現職教員学生が 刺激し合う 「理論と実践の往還」

教職大学院の大きな特徴は、学部の新卒学生と現職教員学生と一緒に学ぶことです。「教員として豊かな感性と視野を広げるといって考えに基づいていま」と教職大学院・専攻長の藤中隆久教



現職教員と共に学ぶ教職大学院の講義

授が話します。「学生が自由に、楽しく学ぶ雰囲気をつくるのが大学院の役割。年齢や経験値を超えて学び合い、後に学校というチームをまとめる際に力

## 現場ニーズに応えられる 実践的指導力

教職大学院では、デジタル社会にあわせた教育方法についても研究してきました。最先端のプログラミング教育やICT教育を学んでいる学生は、実習校で即戦力になるケースも見受けられま

す。また様々な特性をもつ子どもに関する最新の研究を学べることも、現職教員学生にとって心強いといえます。このように実務家教員と研究者教員それぞれの強みを活かし、学校や地域と連携しながら、実践力のある教員の養成を図っています。

教育学部のキャッチコピーは「目指そう、未来の人づくり」。八幡教授は「未来の人たちをつくる、夢と希望を持った教員を養成できた」という思いを語ります。「新しいことや面白いものを見つけて、生涯を通じて学び続ける。一人で抱え込まずに、他の教員と協働できる。そんな教員になつてほしい」と八幡教授。一学が「つってこんなに楽しいんだ」と自身が感じ、子どもたちに伝えられるかが重要だ」といって藤中教授の励ましも、学生の心に響きます。



大学院教育学研究科長  
八幡(谷口)彩子 教授  
YAHATA-TANIGUCHI Ayako



大学院教育学研究科 専攻長  
藤中 隆久 教授  
FUJINAKA Takahisa



大学院教育学研究科 コース長  
八ッ塚 一郎 教授  
YATSUZUKA Ichiro



大学院教育学研究科 中山 玄三 教授 NAKAYAMA Genzo  
 教育実践総合センター長 干川 隆 教授 HOSHIKAWA Takashi  
 大学院教育学研究科 黒山 竜太 准教授 KUROYAMA Ryuta  
 大学院教育学研究科 藤中 隆久 教授 FUJINAKA Takahisa  
 教育実践総合センター 中野 浩幸 特任教授 NAKANO Hiroyuki

毎年3月には、学生主導でシンポジウムを開催。活動の失敗例も共有しており、子どもとのふれ合いや学生同士の学び合いが、教育現場で悩んだときに役立っています。

**引き出しを増やし、深い実践的指導力を磨く**

こうした活動が長く続く大学は稀で、「ユア・フレンド事業」はその趣旨が地域や学校に浸透しているからではないかと、藤中教授は分析します。「メイクフレンド」に関しては、学生の経験や学びが後輩へ代々伝えられてきたことが考えられると中山教授は話します。

学校とは違う顔を見せる子ども一人ひとりを前に、マニュアルが通じない経験をする学生たち。様々な学外活動を体験することは、教員に必要不可欠な深い実践的指導力を身に付ける機会となっています。



子どもたちとフレンドシップ事業でふれあうメイクフレンドのメンバー



ユアフレンド募集チラシ

2002年に始まった「ユア・フレンド事業」では、熊本市内の学校や不登校児童・生徒の家庭に、事前に研修を受けて推薦登録された教育学部2年生以上の学生が派遣されます（\*）。年間15

**不登校児童・生徒に寄り添う「ユア・フレンド事業」**

0〜250人の学生が登録され、週に1回2時間程度、子どもとおしゃべりやゲームをして楽しく過ごします。「登校を促したり勉強を教えたりすることが目的ではありません」と、臨床心理学が専門の藤中隆久教授は話します。参加した学生は「不登校のイメージが変わったなど互いの経験を共有し合い、学生だからできる寄り添い方を考えています。」

「ユア・フレンド事業」の学生派遣は熊本市以外でもニーズが増えており、今年度は益城町でも試験的に開始。現在4人の学生が活動しており、今後検証も行う予定です。  
 (\*) 新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は学校派遣のみ。



フレンドシップ事業の様子

**実際の場面を想定しての活動が大きな学びになります！**



メイクフレンド船長 教育学部養護教諭養成課程2年 おきな ちな 沖永 千奈 さん

熊本大学メイクフレンドは今年21年目を迎え、1〜4年の78名で活動しています。今年度は10月に活動を再開し、市内の公民館で小学生を対象にした活動を行いました。楽しんでもらうだけでなく、危険はないか、置いていかれる子どもはいないかなどを想定して企画することは大きな学びになります。これからも子どもたちの居場所をつくっていきたいと思います。

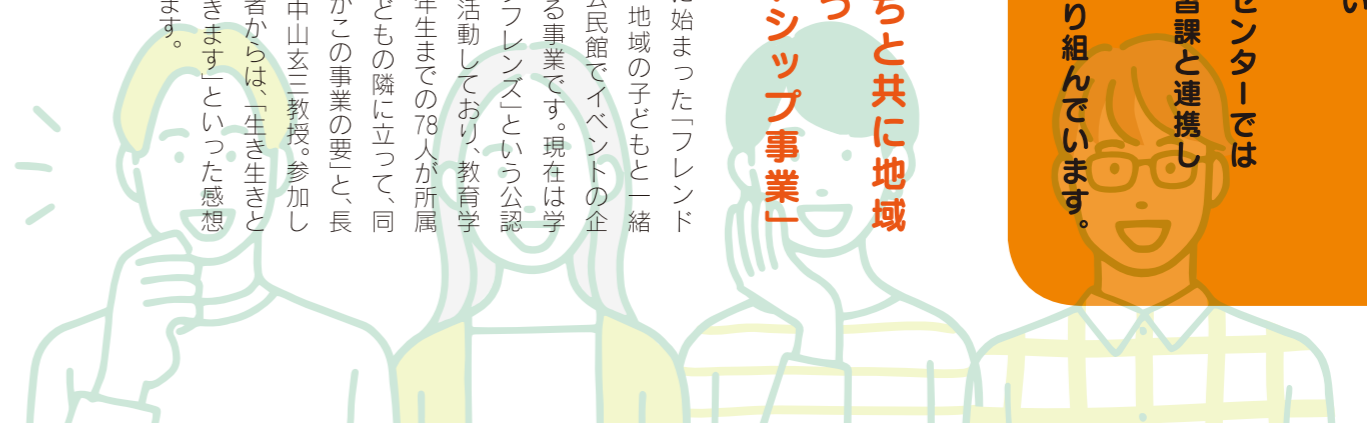
**子どもたちと共に地域活動を行う「フレンドシップ事業」**

1997年に始まった「フレンドシップ事業」は、地域の子どもと一緒に、熊本市内の公民館でイベントの企画や実施に携わる事業です。現在は学生主体の「メイクフレンド」という公認サークルとして活動しており、教育学部1年生から4年生までの78人が所属しています。「子どもの隣に立って、同じ方向に歩くのがこの事業の要と、長年事業に携わる中山玄三教授。参加した子どもの保護者からは、「生き生きとした顔で帰ってきます」といった感想も寄せられています。」

発展させる取組

# 地域の子どもと関わる 2つの活動 カリキュラムにない、学生主体の学外体験

座学と実習だけでは養えない「子どもを理解する力」。  
 教育学部附属教育実践総合センターでは熊本市教育委員会や生涯学習課と連携し「ユア・フレンド事業」と「フレンドシップ事業」に取り組んでいます。



■ 研究室の特徴

- ① 研究テーマが自由  
法律や経済にとどまらず、自分の関心のあることを研究テーマにできます。
- ② みんなで学びを深め合うゼミ  
ゼミでは、グループワークを通じて、様々な意見を取り入れ、一人ひとりの学びを深めていきます。先輩の考え方を学べる3年、4年の合同ゼミもあり、通常のゼミとは違う刺激があります。
- ③ 実地で学ぶフィールドワーク  
フィールドワークも多く、コロナ禍前は、毎年水俣でゼミ合宿を実施していました。2020年度は、オンライン上で水俣を訪れ、2日間のバーチャル水俣合宿を実施。自宅にいながら「実地で学ぶ」を実現しました。

■ 主な就職先

公務員、一般企業、進学(会計専門職大学院)



水俣病訴訟も含めた辛い体験を患者の方からオンラインでお話を伺うゼミ生 (2020年度)



著名な企業の創業者についてグループで調べた内容を発表する3、4年生の合同ゼミ

研究室探訪  
Laboratory Report

法学部法学科  
外川 健一 教授  
TOGAWA Kenichi

世の中のあらゆる問題や事象から  
社会や人とのつながりを考える



学生から一言！ 研究室に所属している学生に研究の魅力を聴きました！



法学部  
法学科4年  
たかむら じゅん  
高村 淳さん

先輩方との距離が近い！  
先生と話すことで、  
考えが深められます

どんな研究を？  
ゼンインレブンの経営戦略を研究しています。例えば、ゼンインレブンは他のコンビニとは違い、狭い範囲にいくつも店舗を構えている特徴があります。この戦略もたまたま効果で、売上向上につながっているのですが、一方でマイナスイ面もあることが分かってきました。  
入学する前から経済学を学ぼうとは思っていませんが、勉強する中でやりたいことが見つければいいと思っていました。2年生のときにゼミを受講して、グループワークが楽しかったので、この研究室を選びました。



法学部  
法学科4年  
なかの  
中野 いつきさん

法律や経済だけでなく、  
いろんなことを学びたい人におすすめ

どんな研究を？  
市役所などでITをどう活用できるかという研究を行っています。卒業後、システム開発を行う企業に就職するので、このテーマにしました。  
一見理系のようですが、就職予定先は介護サービスなど公共的な分野に関わる仕事をしているので、公共社会の視点を持っているのは、文系の強みだと思っています。そして、この研究室では、法律や経済学以外の社会問題も扱うので、広い視野で問題を見つめる力が身に付けられると思っています。

研究室の良いところは？

先輩方との距離が近いところで、3年と4年の合同ゼミが時々開催されるので、研究だけでなく、就職活動や公務員試験についての相談もできます。  
外川先生は、物静かな方に見えるかもしれませんが、おしゃべりで面白い先生です。質問をすると、質問したことだけでなく、関連するいろんなことを教えてくださるので、先生と話す知識が深められます。



先生から一言！

社会に関わる幅広い  
テーマを研究  
経済学ゼミですので、簿記・会計や環境問題等も含め、幅広く学習しています。学生は自分の関心のあることを研究テーマに取り上げているので、就職先と関わるものや、ドラマや映画を題材に扱う人もいます。どのテーマでも先行研究から研究・分析方法を学ぶこと、また経済学なので、社会や人間関係とのつながりを考えて研究することを学生に伝えています。  
私の専門は経済地理学ですが、ゼミでは名著と呼ばれる古典作品を読んでディスカッションを行うこともあります。  
古典の読書も卒業研究も一人では大変ですが、仲間とのディスカッションを通じて、楽しく勉強をしていただきたいと思います。



とがわ けんいち  
外川 健一 教授  
大学院人文社会科学  
研究部(法学系)教授・  
環境安全センター長

# 熊本大学の

# ベンチャー支援

## 特集2



学生時代に発想したアイデアや研究成果を形にし、新事業や新商品を開発する人が増えています。熊本大学でも学生の皆さんが高い創造意欲をもって新しい何かを生み出そうとするアントレプレナーシップ(起業家精神)を身に付けられるよう、様々な形で支援しています。さらに、大学発ベンチャーなどの認定制度も整備しました。

学生や研究者の挑戦を支援する熊本大学の取組をご紹介します。

ベンチャーとは……新しい技術やビジネスモデルを元にしたサービスや事業で起業すること

## 夢を実現！ ベンチャー起業した先輩

これまで、多くの先輩たちが自分のアイデアをもとに、大学の支援を受けつつ起業。社会貢献を目指して頑張っています。そんな先輩たちから、後輩へのメッセージをもらいました。



熊本大学認定ベンチャー  
株式会社サイディン

目標は創薬。そして  
ベンチャーが息づく熊本へ

「HIGGOプログラム」に  
始まった人との出会い

2016年、大学院薬学教育部在学中に、シクロデキストリンによる医薬品や機能性食品開発を柱とする株式会社CyDing(サイディン)を立ち上げたのが弘津辰徳さんです。

弘津さんは、大学の「HIGGOプログラム」に参加したことで起業を決意。「起業した人たちがとても幸せに見える」と話します。そして起業支援を行う株式会社リバネスの支援を受けながらわずか4カ月で起業しました。5年経った現在は、大学の研究機器やオフィスの使用、共同研究・開発資金調達といった支援を受けてさらなる成長を目指しています。

起業の経験を還元し、  
道標になれたら

2021年5月には、ふりかけて食べるだけで脂肪の吸収を抑える「調身料®ドンマイン」を発売。「身近な食品を開発して会社を周知できれば、次のチャンスにつながり



調身料®ドンマイン

中性脂肪・血糖値の抑制効果があるオリゴ糖「シクロデキストリン」を活用した「調身料®ドンマイン」。インターネットや熊本県内の薬局などで販売中



サイディン  
株式会社 CyDing  
代表取締役  
ひろつ たつのり  
弘津 辰徳さん

ます。さらに熊本では馴染みの薄いベンチャーに対し、学生が関心を持つきっかけになれば」と期待しています。「失敗や苦労を含め、経験を学生に還元することは楽しい」と話す弘津さん。現在薬学部1年生に講義を行っているから、そんな軽い気持ちでいいから、一歩踏み出すことが大事」と、エールを送ります。



熊本大学認定ベンチャー  
株式会社CAST

圧電センサーを入口に製造業の  
情報面インフラを支える会社を目指す

最短で、最良の形で  
社会貢献するために起業

株式会社CASTは、熊本大学で研究開発されていた圧電センサーの技術で2019年9月に設立されました。耐熱性が高く柔軟なセンサーは壊れにくく、工場の安全確保などへの活用が期待されています。代表取締役の中妻啓助は「ノウハウ性が高い技術のため、自分たちでやったほうが最短で、一番いい形で社会貢献できると考えました」と話します。

現在は、愛知県の工場の一角に製造ラインを構築。「研究していた技術にどのくらい価値があるのか見えてきました。現場で役に立っているのが分かってうれしいです」

心強かった  
クロスアポイントメント制度

創業後の支援メニューは心強かったと中妻助教は言います。「大学の職員さんが、出向という形で外部とのビジネス交渉などを手伝ってくれるクロスアポイントメント制度は心強いです」。そのほか、オフィスや研究設備の使用などが、事業化のスピードをアップ



圧電センサー



キャスト  
株式会社 CAST  
代表取締役  
なかづま けい  
中妻 啓さん

今後はセンサーで取得したデータの活用法にも力を入れたいという中妻助教。「製造業の情報面インフラを支える企業になりたいと思っています」

転職でCASTに入社！  
仕事の幅が広がりました

2020年8月、大手メーカーを退職し、CASTに入社しました。もともと中妻先生の研究室に所属しており、新しい何かを始めたいと思ったとき、声を掛けていただいたのがきっかけです。大きな会社では、社員それぞれ異なる役割をもっていました。ベンチャーは一人でするいろいろなことをやらないといけない。おかげで仕事の幅が広がりました。最先端の技術を使って新しいことができるベンチャーで、多くのことを学んでいきたいと思っています！



たなか ゆうや  
田中 雄也さん



学生ならだれでも  
チャレンジ  
できる！

# アイデアをビジネスにする 夢プロジェクト

熊本大学では毎年4月、  
学生が持っているアイデアを  
ビジネスプランとして  
形にするための支援を行う  
「夢プロジェクト」の  
参加者を募集しています。



たかはし こういち  
高橋 浩一 特任教授  
熊本大学  
熊本創生推進機構  
イノベーション推進部門  
石油会社、外資系コンサルティング  
会社、起業、ベンチャー企業を経て  
熊大へ。自然科学教育部「イノベー  
ションリーダー育成プログラム」、夢  
プロジェクトを担当。博士(感性学)。

トライアンドエラーの繰り返し  
将来の夢実現につながります！

夢プロジェクトは熊本大学独自の制度で、  
1年かけて自分のアイデアをビジネスプラン  
にしていく課外活動です。自分のアイデアを  
形にしていくアンビシャスコースと起業を目  
指してビジネスプランを作成するプレジデン  
トコースに分かれて活動を行っています。プ  
ロジェクト参加者には、ベンチャー企業の  
経営者がアドバイザーとして、ベンチャー  
で働く若手社員が先輩メンターとしてプラ  
ンづくりをサポート。学外のビジネスプラ  
ンコンテストにもエントリーしています。  
ぼんやりとしたアイデアが、社会を変える  
ビジネスになるかもしれません。ぜひ、チャ  
レンジしてみてください！

## 熊本大学学生広報スタッフが聞きました！

「夢プロジェクト」チャレンジ中！  
コロナ禍だからこそそのアイデアで世界を変えたい！

現在、夢プロジェクトに参加し  
ている五木結愛(工学部材料・  
応用化学科3年)さんに、熊本  
大学学生広報スタッフの今吉朱  
音さん(文学部コミュニケーション  
シヨンプログラム2年)と野尻有  
紗さん(法学部法学科1年)が、  
インタビューしました！



かき石鹸機



五木 結愛

五木 「まず動くことが大事  
だな」と感じています。やっ  
てみれば周りがついてきま  
す。コンテストなどの機会  
やいろいろな出会いを利用  
することも重要です。情報  
を収集できるようアンテナ  
を張って、ぜひチャレンジ  
してみてください！

今吉 挑戦しているのはどんな  
プロジェクトなんですか？  
五木 手を洗うときに使う「か  
き石鹸機」です。機械に手を入  
れると、かき氷のように削れた  
固形石鹸が出てくるというもの。  
石鹸に直接触らずに必要な量の石  
鹸が使えるので、水に濡れて石  
鹸が溶ける心配ありません。

野尻 夢プロジェクトに参加し  
てみてどうでしたか？  
五木 外部の人の意見を聞いて、  
アイデアを客観的に考えられる  
のがよかったです。いろいろな  
ビジネスコンテストに参加して  
他の人の意見を聞くと、アイデ  
アがどんどん具体的になります。  
コンテスト参加のモチベーショ  
ンも保てます。活動資金が出る  
のもありがたいですね。

今吉 これから夢プロジェクト  
を目指す後輩にメッセージをお  
わたしたちが聞きました！  
野尻 有紗さん

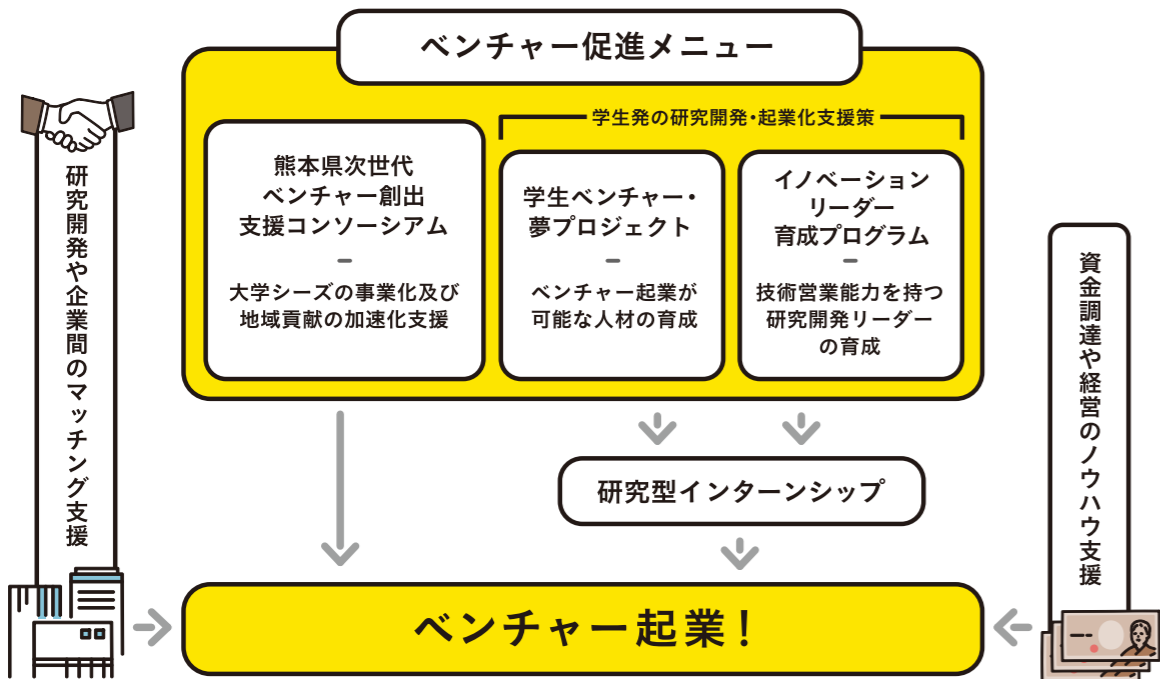
## 小さなアイデアも ビジネスへ

熊本大学のベンチャー支  
援は、様々な企業や団体が  
関わり、産学官連携で行っ  
ているのが特徴です。

まずは学内で、アイデ  
アをビジネスモデルにす  
る考え方や手法を教えた  
り、学内のシーズを事業  
化するためのサポートな  
どを行ったりします。そ  
の後、ビジネスコンテス  
トなどへの挑戦を促すと  
同時に、産学官の団体で  
構成する「熊本県次世代ベ  
ンチャー創出支援コン  
ソーシアム」などで技術  
マッチングや資金調達な  
どの支援も実施。特に、  
大学発の技術を活用した  
起業については熊本大学  
の大学発ベンチャー等と  
して認定し、オフィスや  
研究施設の貸与なども  
支援しています。

## 産学官連携で取り組むベンチャー支援

誰もがチャンスにつなげられるよう、  
アイデア段階から起業後まで多様な体制で支援を行っています。



## 大学の3つの認定制度

熊本大学発ベンチャー企業	熊本大学認定ベンチャー企業	熊本大学認定法人
本学の教職員・学生等が大学発技術を元に起業(準備中を含む)したもの	「熊本大学発ベンチャー企業」としての条件を満たし、かつ、本学の知的財産等のライセンスを受けたもの	本学と共同研究を行っている企業、かつ本学の知的財産等のライセンスを受けたもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>「熊本大学発ベンチャー企業」の名前が使える</li> <li>大学内の一部施設が事務所として借りられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「熊本大学認定ベンチャー企業」の名前が使える</li> <li>大学内の施設(事務所や研究施設)が借りられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「熊本大学認定法人」の名前が使える</li> <li>大学内の施設(事務所や研究施設)が借りられる</li> </ul>

## 子どもたちに自分のこと、故郷大分を好きになってもらいたい



熊大のココがイイ！

学生同士、先生と学生の距離が近い。生涯の伴侶とも出会える...かも！

### 直野 文彦

NAONO Fumihiko

大分県中央児童相談所 こども相談支援第2課

文学部コミュニケーション情報学科 平成26年3月卒

平成2年生まれ。大分県大分市出身。大分県立大分鶴崎高等学校から熊本大学へ。故郷大分を国内外の方に知ってもらいたい、好きになってもらいたいと思って大分県庁へ入庁。趣味はドライブと温泉。

### ALTの先生がきっかけで、大分と世界をつなぐ人になりたかった

大分と世界をつなぐ人になりたいと思っていました。高校時代、ALT(外国語指導助手)の先生と週に一度、昼食を食べていました。「ここに来るまで大分という名前も知らなかったけれど、この街をとても気に入っている」と言われ、うれしかったのと同時に、もっと自分の故郷をみんなに知ってもらいたいと思うようになりました。

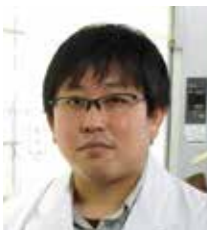
### 出会いに恵まれた大学生活

同じ学部の友人とは夜通し遊んだり、弾丸旅行をしたりしました。3年のときに1年間アメリカ留学し、現地の大学生活を通じて世界中に仲間ができました。帰国後は、先生の熱い指導のもと、就活や卒論を仲間と一緒に乗り越えることができました。熊本大学で会った仲間や恩師とは今でも交流を続けています。

### 家族の命運を左右するプレッシャーとともに、やりがいも感じている

現在は児童相談所のケースワーカーをしています。虐待など、様々な家庭問題を抱えた児童や保護者と日々対話しています。自分の対応や言葉がその家族の命運を左右するプレッシャーがありますが、同時にやりがいもあります。仕事を通じて、子どもが自分のこと、ひいては故郷大分を好きになってもらえればと思っています。

## 新しい機能性材料の開発を目指し、日々研究



熊大のココがイイ！

きれいなキャンパスと充実した研究環境、切磋琢磨(せつさたくま)できる仲間がいること。

### 仲谷 学

NAKAYA Manabu

城西大学理学部化学科 助教(埼玉県)

理学部理学科 平成25年3月卒

大学院自然科学研究科博士後期課程 平成30年3月修了

平成2年生まれ。大分県佐伯市出身。大分県立佐伯鶴城高等学校卒業。錯体・物性化学での自由なデザイン性と機能発現の面白さに惹(ひ)かれ、大学卒業後は研究者の道へ。趣味は食べることとドライブ。

### 化学の先生を目指していたが、研究職へ方向転換

高校生のころから化学が好きで、将来は化学の先生を目指していました。3年のとき、下村脩先生がノーベル化学賞を受賞したのを見て、先生として教えるだけでなく、研究者として化学を突き詰めていきたいと思うようになりました。自分で新しい化合物を合成し、社会の役に立つ研究をやっていきたくて思っていました。

### 指導教官や研究室の仲間と研究について日々語り合った

1~3年までは、ソフトボールに打ち込んでいました。共同研究をされていた先輩の話聞いていくうちに楽しそうだと感じ、理学部の物性化学の研究室に入りました。研究室では、新しい分子を設計・合成し、その特性を評価、議論していくことが楽しく、指導教官や研究室の仲間と研究について日々語り合っていました。

### 固定観念にとらわれず、新しい化学分野を切り開きたい

大学卒業後は、東京大学で博士研究員として研さんを積み、現在は城西大学で、「超分子化学に基づく金属錯体の機能開拓」に取り組んでいます。錯体化学と生体化学分野を複合させた新しい機能性材料の開発を目指し、日々研究を進めています。固定観念にとらわれず、これまでにない化学分野を切り開いていきたいです。

## 日々進歩する医療技術。新しい知識・技術を得られる大学病院へ



熊大のココがイイ！

学びも遊びも充実させられる環境があること。

### 三垣 宏晃

MIKAKI Hiroaki

福岡大学病院 放射線部

医学部保健学科 平成31年3月卒

平成8年生まれ。鹿児島県薩摩川内市出身。鹿児島県立川内高等学校から熊本大学へ。現在は診療放射線技師として福岡大学病院で勤務。趣味は旅行。

### 多くの検査を行う放射線技師は、飽き性な性格に向いていると感じた

高校時代は特にはっきりとした夢はなく、漠然と医療職に就ければと考えていました。いろいろな医療職について調べていく中で、CTやMRI、放射線治療など多くの検査を行う放射線技師という職業を知りました。飽き性な自分にとって、いろんなことができる職業は向いていると感じ、放射線技師を目指すきっかけになりました。

### 人生で一番慌ただしかった4年生の経験が今生きている

3年まではサークル活動やアルバイト中心の日々でした。サークルでの思い出やアルバイトでの経験は自身の励みになっています。4年になると研究室での活動や実習も始まり、今までの人生の中で一番慌ただしい1年間でした。そのときに得た知識・経験が今生きているのを感じて、あの1年間頑張った良かったなと思います。

### コロナ禍でも、学びが多く充実した日々

日々進歩していく医療技術の中で、できるだけ新しい知識・技術を得ることができるになりたいと、大学病院に就職しました。就職2年目からコロナ禍になりました。感染対策に気を配りながらの病院勤務は大変なことも多かったですが、その中でも多くのことを学んだり研究を行ったり、充実した日々を過ごしています。

## 生まれ育った福岡県で、県民の健康増進のために働けることに感謝



熊大のココがイイ！

明るく前向きな雰囲気と、親切で充実した学生支援による安心感。

### 塚本 萌

TSUKAMOTO Moe

福岡県南筑後保健福祉環境事務所 健康増進課精神保健係

法学部法学科 令和2年3月卒

平成8年生まれ。福岡県久留米市出身。福岡県立明善高等学校卒業後、熊本大学へ。幼いころから歌や音楽が好きで、管弦楽部に所属。運動時、車内でのラジオや音楽鑑賞が日課。

### 将来やりたいことを見つけるために、熊本大学へ

高校当時は、授業や部活動についていくことだけでも精一杯で、未来についての明確なイメージは持てずいました。教科の中で特に公民が好きで興味があったので、さらに見識を広げることで、将来やりたいことが見つけられるのではないかと考え、法学部を志望しました。

### 学内外の多くの方にお世話になった大学生活

入学して間もなくから、毎日のようにアルバイトをしていました。3年になるころから、焦りながらも腰を据えて学業や就職活動に取り組み始めました。所属した行政法ゼミでは、フィールドワークや当事者調査のために遠方へ赴くことも多く、学内に限らずたくさんの方々にお世話になった、かけがえのない大学生活でした。

### 保健師による障がい福祉支援や自殺対策等をお手伝い

とにかく何か人の役に立つ仕事に就きたくて、語学を学んだり、公務員試験対策講座を受けたりしました。現在は保健所の事務員として、保健師による障がい福祉支援や自殺対策等のお手伝いをしています。自分の生まれ育った福岡県で、県民の皆さんの健康増進のため働けることに感謝しながら、日々まい進しています。

## 薬 大学生活での学びを活かし、医療機器を審査しています



熊大のココがイイ！

研究、勉強、遊びに対し、全てのアクセスがよいところ。

### 森内 将貴

MORUUCHI Masataka

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医療機器審査第一部(東京都)

薬学部薬科学科 平成27年3月卒

薬学教育部医療薬科学専攻 平成31年3月修了

平成2年生まれ。福岡県久留米市出身。平成4年に熊本市へ。大江小学校、白川中学校を経て、私立文徳高等学校(熊本県)卒業。オートバイ免許、自動車免許、薬剤師免許、アマチュア無線技士3級。

### 体調を良くしてくれる薬に感動して、薬学部を志望

喘息(ぜんそく)持ちで、どんなに苦しいときでも、体調を良くしてくれる薬に感動して、薬学部を志しました。通っていた高校と同じ敷地に薬学部があり、大学の先生が高校生向けに、いろいろなお話をしてくださいました。いまだ治療法のない患者さんに、新しい治療薬を届ける仕事をすることが夢でした。

### 1~3年は運動・遊びに全力、4年からは研究に没頭

1~3年はテニス部に入り、運動や友人との遊び、飲み会に全力で励みました。また、バイクで阿蘇や天草に行ったりして、豊かな自然を満喫しました。4年からは研究室に入り、医療機器の開発や、新しい実験系の確立に挑戦していました。

### 研究室で培った考察力が仕事に役立っている

現在は医療機器を審査する仕事をしています。医療機器は様々な分野の研究により作られた産物であり、大学生活で学んだことや研究したことが今の審査につながっています。審査の中では、いろいろな角度で検証する必要がありますが、研究室で培った考察力がとても役立っています。

## 工 研究で培った論理的・科学的思考力を活かして、部隊・隊員を育成



熊大のココがイイ！

研究室の先生方が熱心で、厳しくも充実した生活を送れること。

### 樋口 大雅

HIGUCHI Taiga

陸上自衛隊 第4師団 第16普通科連隊(長崎県) (令和3年11月30日時点)

工学部電気システム工学科 平成21年3月卒

大学院自然科学研究科博士前期課程 平成23年3月修了

昭和61年生まれ。兵庫県西宮市出身。私立報徳学園高等学校(兵庫県)卒業。大学院修了後、陸上自衛隊幹部候補生学校に教育入隊。以降、幹部自衛官として、部隊指揮官、機関研究員等として勤務中。

### 漠然と工学系に憧れを抱いていた

明確な夢はなかったかもしれませんが、あんまりよく覚えていないんですね(笑)。ただ、工学系に漠然とした憧れを抱いていたような気がします。両親に聞いてみると、幼いころは「ロケットを飛ばしたい」と話していたこともあったようです。

### 仲間とお酒と共に、学会より厳しい研究報告会を乗り越えた

3年までは、アルバイト、友人との遊び、趣味の古武道で生活が埋まっていて、あまり勉強していなかった気がします。4年からは、当時厳しいことで有名だった「医用生体工学研究室」に所属。学会より厳しい毎週の研究報告会をどうしのぐか、仲間と常備酒で気合を入れつつ、必死に研究に打ち込みました(笑)。

### 学んだ知識・技能は、いろいろな世界で生かせる

現在は、陸上自衛隊の部隊指揮官を務めています。自衛隊と研究と間とつながらない方も多いかもしれませんが、研究で培った論理的・科学的思考力は部隊・隊員の育成に役立ちます。また、少ですが我が国を守る装備品の研究開発業務に関わった経験もあります。学んだ知識・技能はいろいろな世界で生かれます。



## 本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

## 教 国語の力、言葉の力を育むために、日夜研究しています



熊大のココがイイ！

キャンパス内の開放的な雰囲気と自由な校風、文化を大切にすること。

### 吉川 真悟

YOSHIKAWA Shingo

鹿児島大学教育学部附属中学校 教諭

教育学部中学校教員養成課程国語科 平成26年3月卒

平成3年生まれ。鹿児島県薩摩川内市出身。鹿児島県立川内高校卒業。熊本大学卒業後は4年間の公立学校勤務を経て、平成30年より鹿児島大学教育学部附属中学校勤務。

### 読書や文章を書くのが好きで、国語教師を目指した

本を読んだり文章を書いたりするのが好きでした。この興味・関心を生かせる職に就きたいと思い、中学校の国語教師を目指しました。

### 思考の寄り道をしながら、自分自身を見つめた4年間

ひたむきに何かに挑戦するというより、いろいろな思考の寄り道をしながら自分自身を深く掘り下げるような4年間だったように思います。ゼミで学んだ「当たり前」を見つめ直し、「本当にそうか？」と常に自分に問い続けるという姿勢が、今の自分の教師としての基盤になっていると思います。

### 生徒や周りの先生から新しい価値観・考え方を学ぶ日々

現在は鹿児島大学教育学部附属中学校で、中学生に国語の力、言葉の力を身につけさせ、それらを育むためにはどうすればよいか、日夜研究しています。たくさん生徒たちや先生方から新しい価値観・考え方を学び、とても刺激的な日々を送っています。

REPORT 地方創生人材育成事業実施に関する覚書を締結しました

令和3年10月4日に、熊本創生推進機構は（公財）阿蘇地域振興デザインセンターと地方創生人材育成事業実施に関する覚書を締結しました。

本覚書は、同センターと本学との包括連携協定に基づき、相互が連携し事業を推進することを目的としており、地元の意欲ある若手事業主らを対象に人材育成塾「あそ未来創造塾」を開講し、「第二創業」等の新たなチャレンジを支援することで地域課題の解決方法や地域経済活性化の実現、地域の担い手の育成を推進していきます。なお、今回の人材育成塾は、八代市、天草市、玉名市に次いでの開講となります。

締結後は、「あそ未来創造塾」の開講式を行い、塾生が参加の動機や今後の抱負等を述べました。



高橋周二（公財）阿蘇地域振興デザインセンター理事長（左）、甲斐広文 副学長（右）

REPORT 株式会社三菱UFJ銀行と包括連携協定を締結しました

令和3年11月10日に、本学は株式会社三菱UFJ銀行と包括連携協定を締結しました。

本協定は、本学が有する研究成果や技術シーズと日本最大の総合金融グループのネットワークやノウハウの「共創」により、全国のセクターとの連携、ベンチャー育成、地域活性化や本学の財務基盤の強化などを推進することを目的としています。

今後、研究成果の社会的活用への支援、ベンチャー創出及び育成、資産の有効活用を通じた市民・地域社会との共生・交流機能の強化、資金管理の高度化を通じた持続的な財務基盤の確立に関して連携を強化していく予定です。

この協定を機に、さらなる産学連携の推進及び地域社会の課題解決・持続的発展への貢献を目指します。



左から、清水聖幸 副学長、大谷順 理事・副学長、小川久雄 学長、三菱UFJ銀行 谷口宗哉 副頭取、藤岡 了 熊本支店長

REPORT 学内食料等支援を実施しました

令和3年11月2日に、新型コロナウイルス感染症の影響によりアルバイト収入等が減少している本学学生を対象に、黒髪北地区体育館において食品や日用品等を配布しました。

この企画は、本学と肥後銀行の包括連携協定の連携事項の1つ「地域の課題解決・発展に関すること」として実施され、地元企業の皆様のご協力もいただきました。

今年6月及び9月の実施に続き、3回目となった今回は、過去最多501名の学生に配布しました。多数の企業様に協賛・協力いただいたおかげで、幅広く学生に支援することができ、受け取った学生からは感謝の声が数多く寄せられました。支援にご尽力いただいた企業等の皆様に心よりお礼申し上げます。



REPORT 株式会社ニューコ・ワンとの共同企画による展示会を開催しました

熊本大学は株式会社ニューコ・ワンが運営する TSUTAYA及び蔦屋書店において、共同企画による展示会を不定期で開催しています。

10月27日から11月2日まで「変わりゆく魔女とシェイクスピア」と題して、本学大学院人文社会科学部研究部の松岡浩史 准教授による研究内容を、12月8日から14日まで「史上最大の電波望遠鏡で解き明かす宇宙の謎」と題して、本学大学院先端科学研究部の高橋慶太郎 教授による研究内容を、蔦屋書店熊本三年坂においてパネル展示を行いました。

教員や学生による説明動画の放映や、オリジナルのカードゲームを使ったワークショップも開催され、本学の研究を身近に感じてもらえる機会となりました。



REPORT 第十回紫熊祭をオンラインで開催しました



Sigma Festival

アーカイブ配信はこちらから！



令和3年10月30日に、熊本大学の大学祭である「紫熊祭」をオンラインで開催しました。新型コロナウイルスの影響により、昨年は中止となり、今年も開催も危ぶまれていましたが、実行委員の学生達の「今年こそは学生生活躍の場をつくり、コロナ禍の中で閉塞感を感じている人達に熊大生の元気を届けたい」との思いから、今年度はオンラインによる開催となりました。

今年は、大学祭の名称が「紫熊祭」となって10周年ということから「10gether」（トウ・ギャザー）というテーマの下、ミス・ミスター熊大コンテスト、熊大コレクション（ファッションショー）、夜の筋肉祭「極」、サークル紹介等、様々な企画が配信され、ピーク時には最大600名を超える視聴者が熊大生の渾身のパフォーマンスを楽しみました。

フィナーレで平野友誠 実行委員長（工学部機械数理工学科3年）か

ら感謝の言葉が述べられると、視聴者から「オンラインでも楽しかった」「面白かった。来年も楽しみにしています」等、賞賛のコメントが多数寄せられました。

終了後、実行委員の学生からは「コロナ禍で大変なことも多かったが、大学祭を開催できて良かった。大学祭の伝統を後輩達につなぐこともできた」との喜びの声が挙がっていました。

当日の様子は、YouTubeのアーカイブ配信で見ることができ、11月時点で1万3千回以上の視聴回数を記録しています。



小川久雄 学長（右）に開催の報告をする平野実行委員長（左）

紫熊祭について、学生広報スタッフがさらに取材しました！

取材の様子は、後日学生広報スタッフ YouTubeチャンネルに掲載しますので、ぜひご覧ください！

Youtubeはこちらから



## 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.56 (令和3年8月1日～令和3年10月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約15億9,135万円(令和3年10月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和3年8月1日から令和3年10月31日までの間に入金を確認させていただきました個人125名、19法人・団体の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様のさらなるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

### 1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※( )内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

#### <熊本大学基金>

【100万円】	西田 治義 (600)	芳賀 義雄 (1005)	有限会社坂本石灰工業所 (210)				
【50万円】	佐藤 孝之 (50)	杏尾 修一 (50.5)	日本中央競馬会 (50)				
【30万円】	熊業研究助成支援の会「1-10千人会」(30)						
【20万円】	小川 久雄 (40)						
【15万円】	常岡 朋子 (15)	熊本大学医療技術短期大学部看護学科同窓会 (15)					
【10万円】	増田 武信 (10)	米村 雄士 (10)	医療法人サムアップいちくちクリニック (20)				
【5万円以下】	池田 勇 (7)	一口 修 (10)	岡田 郁子 (1)	北原 隆司 (4)	塚本 光博 (2)	原田 栄作 (3.5)	藤村 重利 (5)
	宮本 真次 (3.6)	社会医療法人愛育会福田病院 (57)					

### 2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[ ]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

#### <熊本大学基金>

一ノ口 史規 [2]	一安 秀範 [8]	井本 剛司	宇良田 かつ子	大久保 弘人 [3]	小國 大作	小畑 敦	神山 憲次郎 [3]
河野 紀子	神崎 芳郎 [9]	倉澤 剛太郎	小島 淳	五藤 龍三 [2]	小林 渉	坂井 洋子 [4]	白水 克徳 [2]
園田 寛 [2]	高橋 毅	田尻 宗誠 [2]	徳永 裕之 [4]	戸塚 誠司 [4]	波平 康 [4]	西牟田 康博 [5]	野口 健一郎・恭子 [4]
野崎 政次 [2]	野元 剛二 [2]	波多野 恭行 [22]	速形 俊昭	枇杷 剛	本田 喬 [4]	前田 篤志	俣野 友理子
水野 雄二 [2]	宮本 信三	向山 政志 [3]	山口 昇	山田 雅義 [3]	山本 英彦 [6]	山本 正啓	渡邊 圭祐
医療法人伊東会伊東歯科口腔病院 [2]	株式会社久仲工建 [2]	九州産交リテール株式会社		熊本大学医師会 [4]			
社会医療法人黎明会宇城総合病院美里リハビリテーションクリニック [3]		新東京病院		堤化学株式会社 [17]	東京エレクトロン九州株式会社 [6]		
ひがし成人・循環器内科クリニック							

### 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人64名、4法人・団体

### REPORT

## くま医もん基金(田崎基金)による研究助成金贈呈式を開催しました

令和3年11月11日に、大学院生命科学部において、くま医もん基金(田崎基金)研究助成金の贈呈式を開催しました。

くま医もん基金(田崎基金)研究助成金は、医学部医学科教育研究支援事業(医学教育・研究基金)に多額のご寄附を賜りました田崎巖様のご意向に沿って、研究意欲がある基礎医学分野の若手研究者へ研究費の助成を行うものです。

事前に研究内容等の書類選考を行い、贈呈式当日は山縣和也 研究部長から、受賞者13名に対して賞状が授与されました。



山縣和也 研究部長(中央)と受賞者

### REPORT

## 令和3年度障がい学生支援室FD・SD講演会を開催しました

令和3年11月11日に、対面とオンラインによるハイブリッド形式でFD・SD講演会を開催しました。本講演会は、本学での障がいのある学生に対する修学支援の啓発のため、平成30年から毎年行っているものです。本学教職員、学生のほか県内の高等教育機関の関係教職員ら56名が参加しました。

はじめに、障がい学生支援室の藤本智美 キャンパスソーシャルワーカーから、本学の重度肢体不自由学生の支援事例等が報告されました。続いて、京都大学学生総合支援センター村田淳 准教授から、「大学における障がい学生支援一肢体不自由を中心とした身体障がいのある学生への対応を踏まえて」と題して、日本の障がい者施策の流れや、海外や京都大学での支援の話なども交えながら、大学における障がい学生支援について説明がありました。

参加者からは、「合理的配慮の意味がよく分かった」「目的と手段を切り分けて整理し、そして目的を達成するために手段を考える(行う)という点が重要と理解できた」などの感想が寄せられました。



くすの木会館レセプションルームでの講演会の様子

### REPORT

## 第7回熊本大学IROASTシンポジウムを開催しました

令和3年11月22日に国際先端科学技術研究機構(IROAST)は、第7回熊本大学 IROASTシンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、IROASTによる最先端の革新的研究を紹介し、応用技術に幅広く活用することを目的に、国立大学フェスタ2021の一環で開催したものです。

最初に、小川久雄 学長が「科学技術の発展が、人々の心身の幸福(ウェルビーイング)の実現に重要」であることを強調し、続いて、高島和希 研究機構長が、IROASTの優れた研究成果を紹介し、これからの研究で、どのように人に優しく、人に寄り添う新たな科学技術への発展と安全・安心な社会に貢献していくか展望を述べました。その後、5人の若手研究者が、独自の視点で展開している研究を発表し、参加者と意見交換を行いました。

今後も、海外の大学や研究機関との最先端の国際共同研究の実施等により、本学の研究力向上を牽引していきます。



シンポジウム会場の様子

### REPORT

## 令和3年度熊本大学卒業生表彰式を行いました

令和3年10月31日に、令和3年度熊本大学卒業生表彰式を行いました。

この卒業生表彰は、本学の卒業生で、本学の名声を高めていただいた方や本学の発展にご尽力いただいた方の功績を称えるものとして、平成24年度に創設され、各学部等同窓会からの推薦に基づき表彰するものです。

第10回となる今回は、武夫原会(文学部・法学部同窓会)5名、教育学部同窓会1名、理学部同窓会2名、熊杏会(医学部同窓会)1名、医学部保健学科同窓会1名、薬学部同窓会3名、工業会(工学部同窓会)3名の計16名が表彰を受けられました。表彰式には、各同窓会の会長や関係者及び学部長も臨席され、小川久雄 学長からは祝辞が述べられました。



### INFO

## 熊本大学HIGOプログラム10周年記念シンポジウムを開催します

本学と行政・産業界が連携し、健康生命科学のリーダーを育成する大学院教育プログラムHIGOの10年の歩みと修了者の活躍を発信します。ぜひご参加ください!

【日時】令和4年2月12日(土) 13:30~16:50

【場所】熊本大学工学部百周年記念館(オンライン同時配信)

【参加対象者】どなたでも参加できます。(無料)

【申込方法】オンライン参加の場合は参加登録が必要です。(登録期間:~令和4年2月7日)  
[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_QIT9HFknSXaNGdVg9fE52w](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_QIT9HFknSXaNGdVg9fE52w)

【問い合わせ先】熊本大学医薬保健学系事務課 HIGOプログラム担当

TEL: 096-373-5006 E-mail: higo-program@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【URL】<https://higoprogram.jp/10thanniversary/>



↑参加登録はこちら